

# MATSUNAGA HEADLINE NEWS



2011 Vol.14  
TAKE FREE  
秋の増ページ号

発行元：株式会社 松永建設  
発行人：松永大祐  
〒339-0043  
埼玉県さいたま市岩槻区城南五丁目6番6号  
TEL：048-798-1751（代）  
TEL：0120-980-633（フリーダイヤル）  
FAX：048-798-0075  
[HPアドレス]  
<http://www.matsunaga.gr.jp>

## さいたま市「優秀建設工事業者」表彰 国土交通省「工事成績優秀企業」認定

# 優良工事 W 受賞！

この秋、松永建設では、優良工事に関する2つの栄誉に浴しました。優秀な成績を収めた工事現場に対して授与されるさいたま市の表彰、そして、優秀な工事を行う企業に対し、国土交通省 関東地方整備局より与えられる認定。2つのダブル受賞となりました。この栄誉を受け、担当者の喜びの声をお届けいたします。

ダブル

右から、  
松永大祐社長  
土木部 鍋川原伸之係長  
土木部 松山敏彦部長



松永建設はこの秋、優良な工事現場に対して贈られる賞を光栄にも受賞し、去る11月9日、表彰式に臨んでまいりました。「顧客の皆様のために」を何よりも第一に考え、日々に最善を尽くした工事を心がける当社にとって、それが評価されることは何にも勝る誉れです。

今回受賞したのは「平成23年度 さいたま市優秀建設工事業者表彰」。その栄誉に浴したのは、さいたま市見沼区、東大宮駅にほど近い区域で行われた「老幹6号(Φ400mm)配水管布設替工事及び 老第2188号布設替工事」という工事でした。その概略は、老朽化した上水道管を新しい水道管と交換する作業ということになります。「地震などの災害で老

朽化した水道管が破損したということはよく耳にしますが、最近では管のジョイント部分が伸縮して、外れにくく破損しにくい構造の水道管が開発されています」と現場を担当した土木部の鍋川原伸之係長は語ります。随時、老朽化したものから最新の管へと交換が進められており、今回は全長693mに渡る施工となりました。

鍋川原係長は、一昨年に次いで二度目の受賞。その喜びを「自指せV3」という意欲で表現します。「一度目の受賞も非常に嬉しいものでしたが、いただいてみると二度目は、より喜しく誇らしく思えました。私が工事で心がけていることは、そういう突飛なことではありません。お客様である発注者や、実際の工事を請け負って

くれる協力会社との関係や連携を大切にし、安全第一の作業を行うこと。工事における基本中の基本ですが、いつも心に銘じています。それが表彰というかたちで評価されたことは、喜びに堪えません。そして今、「できることなら三度目も……」という意欲が湧いています」

土木部を統轄する松山敏彦部長が語るのは、受賞の意義。「努力した本人の喜びはもとより、当社の名声へつながっていく非常に価値ある受賞でした。評価の決め手になったのは、迅速かつ丁寧な対応ということに尽きると思います。施工そのものが丁寧であると同時に、丁寧な心で臨むという姿勢が認められた結果なのではないでしょうか」

引き続き2面で、工事の全容と施工における努力についてお伝えします。そこには、受賞のカギとも言える「丁寧な心=誠意」が随所に垣間見えていました。

▲鍋川原係長は第1回 繰り返して紹介も受賞！  
設入大賞（2面にて紹介）も受賞！



## さいたま市「優秀建設工事業者」表彰

優良工事 W 受賞!

# 土木工事の基本を大切にして得た栄誉

## よりよい地域の暮らしを目指して

今回、さいたま市からの受賞にあたり、評価のポイントとなったのは以下の3つの点です。「適切な施工管理」「優れた調整力やコミュニケーション力」「地域住民の方々への細心の配慮」。この3点が充分に行き届いているかによって、工事は初めて優良と認められます。では、受賞した鍋川原係長にお話を聞いてみましょう。

### 工事の出来映えをも左右するコミュニケーション力・想像力

「工事の良し悪しというと、どうしてもその出来映えに衆目が集まりがちですが、実のところ最も大切なのは『統括すること』ではないかと思います」と鍋川原係長。お客様のニーズを適確に捉え、それを差配すること。工事パフォーマンスが上がるよう、協力会社との連携を強めること。そして近隣の方々が工事で不快な思いをされることがないように、最大の努力をすること。「これらさまざまな要素をうまくまとめ上げることができたとき、ようやく『いい工事だった』と自信がもてます。出来映えはひとつの結果に過ぎません。誇れる工事が行えれば、おのずとついてくるものだと思います」

施工そのものは知恵や技術がまかないます。しかし、それを統べるのは、調整力や想像力という「人のソフト力」だと鍋川原係長は語ります。今回の上水道管の工事のように、長い工区をいくつかの業



▲土木部 鍋川原伸之係長



▲最後に浄水場内で行った工事(十字屈曲型水管の写真)は、電線なども多数地中を通っていたため、難しい作業に。協力会社との綿密な連携プレーがあったればこそ、乗り切れた工事だったそう



### 何よりも安全に配慮した「丁寧な心」が実った工事

また、地域への配慮も不可欠です。暮らしをより良いものにする工事において、安全や快適さを脅かすようなことがあっては本末転倒。今回の工事現場は、東大宮駅と第二産業道路にはさまれた市街地で、通勤・通学時には大勢の市民が行き交います。そのため安全を何よりも優先し、なおかつ騒音や埃を最小限にとどめる努力が必要でした。

「幼稚園の送迎バスの停留所になっている地点があれば、事前に幼稚園に工事概要をお知らせし、注意を促すとともに、

停留所を移動してもらうといった調整を図りました。想像力を駆使して、安全のための『代替案』を提案していくことは、実は工事において欠かせません。うなぎ屋さんの店舗前を工事する直前には、ちゃんと皆でうなぎを食べにいくような気配りも大切です(笑)」。そうした配慮が功を奏し、なんと今回の工事では「苦情0件」という結果も導き出しました。

土木という工事について、「地味な作業ですが、地域の方々の安全で快適な毎日を守るために、非常にやりがいのある仕事」とはにかみながら最後を締めくくった鍋川原係長。寡黙ながらも、強い意志を内に秘めた謹直な人柄がのぞく、感動的なシーンでした。

鍋川原係長はこの秋、当社内で企画された『輝け! 松永建設人大賞』の記念す

べき第1回目の大賞にも選ばれています。社員投票によって選出された「自慢の仲間」。それが鍋川原係長であったことは、決して偶然ではありません。松永建設の社員誰もが「こうありたい」と心に誓う、建設人としての姿、そして心意気を鍋川原係長が示していたのでしょう。その象徴が今回の受賞だったのかもしれません——。



▲日頃、工事現場ではおなじみの誘導シーンだが、安全意識の徹底した現場では、誘導員のしぐさ、表情にもおのずと違いが。気持ちのいい誘導を行う現場は、必ずいい工事を行っている

## 国土交通省 関東地方整備局より平成23年度「工事成績優秀企業」に認定

優良工事 W 受賞!

国土交通省 関東地方整備局から、優れた工事成績を収めている企業に与えられる「工事成績優秀企業認定」は、建設会社にとって大変な名誉です。認定の該当工事となった4件の土木工事担当者の喜びの声、そして今後の抱負をお聞きください。

## H20山王築堤工事



◎現場代理人 土木部 工事グループ 田中吉朗係長

「今回の受賞は、来年50期を迎える当社土木事業において、歴史や経験を積み重ねてきた結果が実った形だと考えています。これからも安全と品質の確保を第一に、技術力と工事施工能力の向上に努めていきたいと思います」



◎監理技術者 土木部 工事グループ 松浦正弘エキスパート

「当社の総合的な施工管理技術が評価され、今回の認定を受けたことは喜ばしいことです。優れた施工管理には、工学的な技術のほかに、上手な『コミュニケーション』も必要。住民の方々と、お客様や隣接同業者と、そして協力業者との間で、それぞれコミュニケーションの取り方や内容は違いますが、目的は一つ。『決められた期限で、良いものを、良い方法で造ること』です。適切なコミュニケーション無くして、良いものはできません。今回の認定を機に、改めてコミュニケーションの大切さを胸に、仕事に励んでいきたいと思います」



◎現場代理人 H20山王堤防強化工事

「同時に同等工種の工事が多数発注され、国土交通省の設計予定期通りに築堤の材料となる土の調達を行うことがかなり困難でした。そのため隣接工区との争い合いに近い状態でしたが、国土交通省の担当職員及び、他工区の現場代理人と迅速に調整を行うことによって、厳しい工期の中で現場を納めることができたのが高得点に繋がったと思います。そして、無事故で務めたことも評価していただけたと思っております」



◎監理技術者 セールス・エンジニアリング事業部 環境グループ 橋瀬貴之主任

「国土交通省発注の河川盛土工事において当社は、近年、安定して優秀な成績をいただいている。これは、当社において技術の伝承が確かなされている証拠であると感じます。今回、監理技術者として施工管理を主体に受け持ち、発注者が求める要求事項を満たしつつ、地域住民とのトラブルが起こらないよう十分な対応をすることが重要であると再認識しました」

## H20前田堤防強化工事



◎現場代理人 土木部 工事グループ 鹿山祐治主任

「この度、関東地方整備局より工事成績優秀企業認定の表彰を受けたことを、大変嬉しく思っています。工事評点で『プラスα』を頂戴するような工事を行うためには、こちらから有意義な提案を積極的に行っていかなければなりません。そうでないと評価は上向きにならないのです。『提案型建設会社』の一員であることを誇りに、これからもプラスαに結びつく提案を心がけ、高い評価点をとれるよう全力で努力したいと思います」



◎監理技術者 土木部 工事グループ 塙 和博エキスパート

「当社が工事成績優秀企業として認定されたことを誇りに思うとともに、認定の対象となった工事のうちの一つに関わったことを、大変光栄に思います。この認定は、今後の工事受注において当社の評定『基礎点』が加算される、非常に実益のある認定です。今後も引き続き高評価が獲得できるよう、社内外と協力し、工事に取り組んでいきたいと思います」



◎現場代理人 H21山王地区防災施設整備工事

「担当していた現場が、工事成績優秀企業認定の足がかりとなれたことに、大きな喜びを感じています。当作業所の第一の目標は、無災害と工期内完工でした。工期と施工内容から考えると、期限内の完工はほぼ不可能と当初は見通さざるをえませんでしたが、協力会社との強力な連携のもとに工期内完工できました。日々の施工調整はもちろんのこと、無理難題に応えてくださった協力会社に深く感謝しております」



◎監理技術者 土木部 工事グループ 杉山光紀エキスパート

「工事成績優秀企業認定は、過去2年に譲り負ったすべての国土交通省発注工事を対象とし、その工事評価点の平均が80点以上の企業にのみ与えられます。すなわち今回の認定は、当社の基礎的技術力に対する評価であり、非常に名誉なことです。その認定に倣力ながらも関わったことを嬉しく思います。今後も連続認定をなし得、それに貢献できるよう全力を尽くします」

お客様の  
ご紹介

巨大自家発電設備を導入するプロジェクト——それは「挑戦」の足跡

# 曙ブレーキ工業株式会社様



曙ブレーキ工業株式会社・本社正面より

日本が世界に誇るブレーキ製造のエキスパート、曙ブレーキ工業株式会社。東日本大震災時の停電による生産ストップという経験と、その後の慢性的な電力不足に対する不安から、曙ブレーキ工業はこの夏、自家発電設備の導入に踏み切りました。当社も一端を担わせていただいたこのプロジェクトには、大きなスケールにふさわしい大きな感動がありました。

## 事業実現を支えた 日本の復興を願う「厚意」

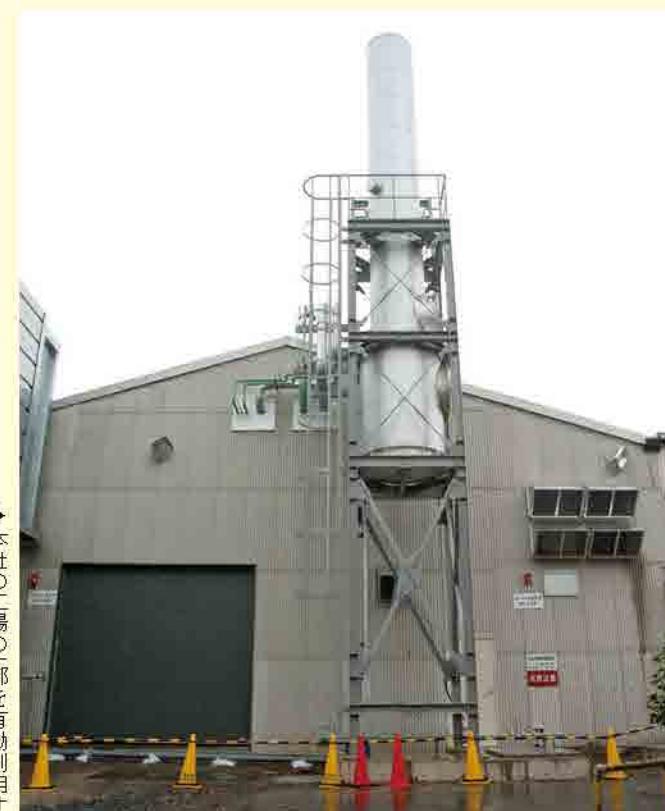
自家発電機の導入設置工事に関わる関係各企業が、初めて一堂に会したのは5月上旬。震災の爪痕は依然として生々しく、電力不足で無事に夏を乗り切れるのかどうかもわからず、日本中がまだ騒然としていました。震災から2ヶ月弱のこの時期に、未来を見据え、導入を決めた迅速な判断とその適確さには、賞賛以外の何物にも値しないでしょう。しかし実際にそれが形になったのは、大きな幸運に巡り会ったおかげと、総務部の小貴賢次課長があるエピソードを披露してくださいました。

「当時、同じような考えを持つ企業は多かったのでしょう。余剰の発電機を最初は全く手配できませんでした。ところが、発電機メーカーである三菱重工業さんから、1台だけ融通が利くと連絡をいただいたのです。サモア(南太平洋・サモア諸島のサモアです)がちょうど発電機5台の製造を三菱重工業に発注していたところを、「震災に遭った日本の役に立ちたい」と、うち1台を優先的に回してくれたのです。このサモアの方々の有り難いご厚意がなければ、プロジェクトはそもそも実現していなかっただろう」

## 絶対条件は「短期決戦」 一気に行われた大規模工事

導入決定を強く後押しした要素もあったそうです。それは経済産業省の補助金制度。導入費用の3分の1が助成されるこの制度には、厳しい支給条件が伴いました。

「手配から設置まですべて完了させ、8月中には発電機の稼動を開始させるというのが絶対的な条件でした。そのため関係各社の皆さんには、大きな負



▶本社の工場の一部を有効利用するかたちで建屋が改修され、機が設置された。巨大な吸排気口がそびえ立つ

担をおかけすることになってしまったのですが……』と総務部の福島雄二部長は語ります。

5月上旬のキックオフ・ミーティングから、補助金の支給が決まって、正式にプロジェクトが動き出したのが6月上旬。そこから8月末までは、3ヶ月弱しかありません。「通常であれば、10ヶ月から1年はかかる工事」(小貴賢次課長)と聞けば、いかに作業が一気呵成に行われたかは想像していただけるでしょう。

今回導入した発電機は、天然ガスを使用燃料とするタイプ。動かすためには、まずガスのパイプラインを引くところから——厳密には、行政との折衝、地域住民の方々の同意を得る、という周辺状況を整えることから、すべては始まりました。続いて巨大発電機を設置する基礎工事と、その建屋の建築工事。当社が請け負ったのはその建築工事でした。総重量120トンの発電機となると、想像のなかなか及ばないスケール。当然、その重量に耐え得るだけの頑強な造りが求められます。発電の際の巨大なモーター音を封じ込める防音性能も気をつかった点でした。

## 技術と経験、そして何より 「誇り」が結集した成果

当社の担当箇所が遅れれば、以降行われるすべての工程に遅れが生じてしまうため、責任は重大でした。「それを強く肝に銘じながら、できる限りのことをしただけです」と、現場所長の当社建築部・江森英夫部長代理は語りますが、しかしそれこそは、恐らくプライドと呼ぶものなのかもしれません。

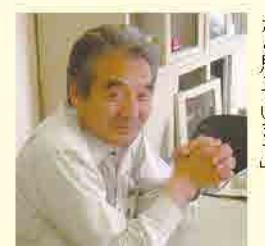
小貴課長の言葉もそれを裏付けています。「最初は『大変な依頼が来た』と、各社感じていただろうと思います(苦笑)。しかし、いつしかそれが『やり遂げてやろ



曙ブレーキ工業株式会社  
総務部 福島雄二部長  
「今夏は休日のシフト替えを実施するため、社内に保育所を設けるなどの対策を行った結果、社員に働き方や生き方を考える気運が出てきました」



曙ブレーキ工業株式会社  
総務部 小貴賢次課長  
「自家発電設備が整ったからと電気を心分に使うのではなく、会社の中でも個々が節電努力の足りなかつたところを見直す契機になりました」



曙ブレーキ工業株式会社  
英夫部長代理  
「大きなプロジェクトに携わったことを『幸せ』と思ふことは、当社・建築部の江森英夫部長代理。「この経験を次へと活かすことが大切だと思っています」



▶上記建屋の内部にこの巨大な発電機が収めである。大きな音を発しながら稼働中の発電機が、盛んに電気を生み出していた



うじゃないか』という強い意志に変わっていくのを、ひしひしと感じました。絶対に諦めない、できることを全てやりきるんだ——そういう心意気を感じたのです」

そしてギリギリの工期の中で尚、「ここはこうするべきだ」とこだわりをもって臨んだ姿。「感激でした」と漏らした小貴課長の言葉が端的に、その間の工事の様子を表していました。

「今回のプロジェクトが成功した根底にあったのは、各社のプロ意識。そしてそれを持った人間によるマンパワー。これに尽きるでしょう」(福島部長)。

## 発電機による社会貢献という もうひとつの願い

こうして無事、発電機は8月末から稼動を始めました。発電機の最大出力が

約6,000kwであるのに対して、曙ブレーキ工業本社における、昨夏の電力使用量のピークは約3,000kw。自家発電機で充分まかなえる計算です。

今回導入した発電設備の特徴は、余剰電力があれば、曙ブレーキ工業から東京電力へと送るシステムを供えている点。「こうした還元によって、少しでも電力の不足を補い、社会に貢献できればと我々は願っています」(福島部長)

互いに手を差し伸べ、差し伸べられて、初めて成り立つもの——改めてその「社会」というものの意味と大きな枠組みを意識した、曙ブレーキ工業のプロジェクトでした。

お客様の  
ご紹介

耐震補強とリニューアル工事で災害にも強い病院へ

## 医療法人 新井病院様



地震災害から命を守るために大切な工事となる耐震補強には、行政による各種耐震助成制度があります。この度、国土交通省による「住宅・建築物耐震改修モデル事業」の埼玉県第1号に、久喜市の新井病院が認定されました。

今回の工事のポイントは、「美観に配慮した耐震補強」。新井病院の関谷 栄院長は、耐震補強を施したさまざまな建物を見てきた中で、鋼材がむき出しになっているような仕上がりに以前から疑問を感じていたそうです。「確かに強度はあるかもしれません、あまりに無骨な雰囲気では、患者さんの安心感も得にくいだろうと考えたのです」。そこで、

斜めに筋交いを入れるプレース補強ではなく、丸形鋼を使い、極力美観を損ねない仕上がりを目指しました。また、従来の工事であれば柱間に耐震壁を設けるところを、「巻き立て補強」という方法で柱自体を頑強に。壁を増やして患者さんの動線をさえぎらない、という配慮からのものです。

当社の松永大祐社長も、今回の施工は多いに勉強になったと振り返ります。「施設を使う人の立場から見た居住性や利便性。そして美観。今後、さまざまな民間施設の耐震補強が進んでいくことになれば、補強効果を維持しつつ、そ

▶医療法人 新井病院  
関谷 栄院長▼丸形鋼を使い、見た目に配慮したプレース補強  
▲災害などの非常時に救急処置室として転用可能なハッピーリー室▶株式会社 松永建設  
代表取締役社長  
松永大祐

れらを実現するこ  
とが大きなポイントになるはず。私  
共もさらなる努力と研鑽を積んでい  
きます」

また今回は、耐震補強と同時に病院の性能を総合的に向上させるため、増築とリニューアル工事も並行して行われました。通常より大幅に広くとったリハビリ室は、酸素吸入などの設備も壁に埋め込まれ、非常時には救急処置室として転用されます。また、平常時の個室も、非常時には2床室として転用できる広さを確保。これらはみな、「災害などの緊



▲見た目からはわからないよう、壁の内部に施工したプレース補強

急事態のときも120%機能する病院でありたい」という、関谷院長の強い信念から実現しました。

大正11年の開院以来、久喜の基幹病院として発展する新井病院は、今後も地域の皆様の大切な心のよりどころであり続けることでしょう。

新井病院様へのお問い合わせは▶▶TEL: 0480-21-0070まで [住所] 〒346-0003 埼玉県久喜市久喜中央2-2-28

お客様の  
ご紹介震災の被害を乗り越え、新たな魅力満載してオープン!  
岩槻ファミリーゴルフ様

ゴルフ練習場として、地域の方々になじみ深い岩槻ファミリーゴルフ。3月11日の東日本大震災で受けたダメージにより休業していましたが、無事リニューアルを果たし、この10月下旬より営業を再開させています。

「最初に被害を見たとき、思わず言葉を失ってしまいました」と語るのは、経営会社である株式会社ライフ白鶴の小島秀孔社長。防球ネットを貼った鉄塔が傾き、打席棟やクラブハウスの建物も一部損壊。震災当時ほぼ満席だったにもかかわらず、お客様にひとりの

怪我人も出なかったことは不幸中の幸いだったと言えるでしょう。

ご存知の方もいることと思われますが、岩槻区近辺にはところどころ軟弱地盤が存在します。今回の被害が大きかったのも、この軟弱地盤が理由。当社は、震災後すぐに建物・基礎の被害調査に入りました。小島社長は「地元で長く会社をやってらっしゃるから、地盤のことを知り尽くしているということがお願いしたいいちばんの理由です」とその経緯を明かしてくださいました。

調査と分析の結果、やはり激しい揺れ

▶打席は2階建てと  
なっている。打席ごと  
の間隔も広くとられ  
たのである。打席ごと  
の開放感たっぷり

▶株式会社 ライフ白鶴  
代表取締役社長 小島秀孔様▶「一日でも早い復興を」と思  
うことを知り尽くしている地元企  
業として、強い責任感を持つ  
対応させていただきました」と  
語る、営業本部・法人営業グ  
ループ 高木 真係長▲岩槻ファミリーゴルフの外観。駐車場は110台  
も用意されており、年中無休で楽しめる

による基礎部分の損傷は甚大で、修復というより、大幅なリニューアルを余儀なくされました。しかし小島社長はその状況をも前向きにとらえ、岩槻ファミリーゴルフは38年来の施設なので、いずれは建て直しの時期がやってくると考え、今回、全てを一新することにいたそうです。

そして、行政との折衝や解体工事を終え、7月中旬から着工したリニューアル工事も、ついに完成。打席は、より安全を確保するために一席一席を以前よりもぐっと広くとり、打ちやすさも格段に

向上。フェアウェイも以前の土から、鮮やかなグリーンの人工芝を一面に敷き詰めています。より楽しく、美しいゴルフ練習場として無事再開を果たしました。

10月22、23日にはプレオープンを開催し、お客様に1時間無料で打ちっ放しを楽しんでいただいたところ、新しい施設の評判は上々だったそうです。営業時間は早朝6:00から深夜2:00まで。低料金での打ちっ放しと、無料のパット練習を楽しんでいただけます。新しくなった岩槻ファミリーゴルフへ、どうぞ足をお運びください。

岩槻ファミリーゴルフ様へのお問い合わせは▶▶TEL: 048-757-7474まで

[住所] 〒345-0043 埼玉県さいたま市岩槻区加倉5-1-1

お客様の  
ご紹介

皆様の健康と安心のために——杉戸町の頼れる「かかりつけ医」

## 杉戸クリニック様



▲クリニック前にはロータリーがあり、多くの駐車スペースが用意されている

北葛飾郡杉戸町の杉戸クリニックは、堀中 靖院長の「地域の頼れる『かかりつけ医』に」という志のもと、開業した医院です。クリニックを訪ると、そこは、光に満ちた吹抜けの待合室、南向きに長く横にとられた診療室と検査室など、明るく、清潔感が全体に行きわたっています。

「患者の皆さんにできるだけ心地よく過ごしていただけるよう、家庭的なぬくもりを大事にしました。内装にウッド調を多用したのもそのためです」と、堀中院長。診療科目には内科、外科、整形

外科、そしてリハビリテーション科や放射線科もあり、地域のかかりつけ医として、さまざまな患者さんに対応できる体制となっています。そのため院内には、CTスキャン、X線TV装置、レントゲン、骨密度測定装置など、大型の各種医療設備も揃っています。

また、院内各所の広いスペース取りは、車いすや歩行器を使用する患者さんが多いことを考慮してのもの。杉戸町では、患者さんの半数が高齢の方だと思います。マッサージ用の最先端ウォーターベッドや牽引器などが充実したリハ



▲CTスキャン室のほか、採血室、内視鏡検査室など多様な検査室がある

◀杉戸クリニック 堀中 靖院長



▶「医療施設を手がけてきた経験を活かして、使う方に適切な動線が確保できるよう心がけました」と語る、営業本部・法人営業グループ 石田真係長



「杉戸という地において、眞の意味で役に立つ医院であります」と——堀中院長が目指す地域医療のかたち、それは医療と介護の架け橋となることです。「今は、痛い部位を治すだけ、という時代ではありません。的確に症状や身体の具合を見極め、たとえば介護へと移るべき段階であれば、そういう助言をする。それが、これから時代の町医者の役割だと私は思っています」

新時代の「かかりつけ医」の登場は、杉戸町の皆さんにとって、とても心強い支えとなるはずです。

杉戸クリニック様へのお問い合わせは▶▶TEL:0480-33-0088まで

【住所】〒345-0043 埼玉県北葛飾郡杉戸町下高野1760-1

建設の  
現場から

## この秋、街を鮮やかに彩る高級感溢れた賃貸マンションが完成 岩槻区に「ABオービット」が3棟竣工!



### ABオービット「ミ・ピアーチェ」

岩槻駅西口(岩槻駅徒歩6分) / RC造4階建て / 1K・2LDK 19戸

岩槻に建設中だった「ABオービット」3物件が、この秋までに、相次いで竣工しました。ABオービットは、鉄筋コンクリート(RC)造ながら坪単価40万円~の建設費を可能にし、高収益経営をお約束する賃貸マンション。土地という資産の有効活用法として、あるいは節税・相続税対策として、地主の皆様よりご好評をいただいております。

今回竣工となったのは、岩槻駅西口の「ミ・ピアーチェ」、岩槻区西原の「リーベ西原」、岩槻区城町の「フランシーズ・パティオ」。いずれもエントランス廻りの意匠には高級御影石を使用し、重厚で趣あるたたずまいになっています。そ

の高級感溢れる造りは、「賃貸マンション」のイメージとは一線を画します。地主の皆様にとって、資産価値の高い建物に。そして入居をされる方々にとっても、付加価値の高さを感じていただける物件になったのではないかと自信しております。もちろん駐車場やオートロックも完備。暮らしやすさや安全・安心もご提供します。

このたびの3棟の竣工により、岩槻区におけるABオービットは6物件となりました。建築部の畠中宏毅部長が、感慨をこめて振り返ります。「ABオービットを通じて、皆様の資産形成や、豊かなセカンドライフづくりのお手伝いができた



### ABオービット「リーベ西原」

岩槻区西原(岩槻駅徒歩8分) / RC造2階建て / 2LDK 8戸



ことを、大変うれしく思います。と同時に、岩槻区の活性化の一助となれたことは、地元企業として非常に誇りであります」



### ABオービット「フランシーズ・パティオ」

岩槻区城町(岩槻駅徒歩20分) / RC造2階建て / 2LDK 6戸

ABオービットに関するお問い合わせは

営業本部・不動産グループ

TEL: 0120-980-633まで

入居に関するお問い合わせは

松永都市開発賃貸情報プラザ

TEL: 0120-120-879まで

# さいたま市商工見本市「コラボさいたま2011」開催!

高収益な賃貸マンション経営「ABオービット」のご紹介と、太陽光発電の「エコリフォーム」体験などを実施。ご来場、ありがとうございました!



▲さいたま市の清水勇人市長(中央)とともに、弊社の松永 功 代表取締役会長(一番左)が、さいたま商工会議所会頭としてオープニングのテープカットを行いました。



清水勇人市長とブース前で  
ご来訪いただいたさいたま市の  
清水勇人市長とブース前で

11月11日～13日の3日間、さいたま市、さいたま商工会議所などが主催する、県下最大規模の商工業者の見本市「コラボさいたま2011」が開催されました。さいたま市を拠点とする多数の事業者が、自社製品などを出展するこの商工見本市に、松永建設もブースを出展。盛大に開催される中、さいたま市の清水勇人市長にもご来訪いただきました。誠にありがとうございました。

松永建設ブースでは、土地活用に最適な賃貸マンション経営「ABオービット」を、完成物件のパネル展示や建築過程のDVD上映などを通じてご紹介。また、太陽光発電を中心としたリフォーム事業「エコリフォーム」の紹介では、自転車を用いて太陽光パネル1枚分の発電量を体験できるコーナーを設置。多くの皆様に楽しんでいただき、3日間、盛況のうちに幕を閉じました。



## 岩槻駅から松永建設バスが発車! 看板も全面リニューアル!

この秋から、松永建設の広告がさまざまな場所で展開されます。まずは左のラッピングバス。朝日バスの車両に、太陽光発電によるエコライフを提案する「エコリフォーム」と、高収益な賃貸マンション経営をお勧めする「ABオービット」をデザイン。岩槻駅から越谷駅などの路線にて走ります。また、岩槻区内の23カ所にある当社看板を全面リニューアル! 各種商品もご紹介していますので、ぜひご覧ください。



去る8月21日、「人形のまち岩槻まつり」にて“松永サマーフェス2011”を開催いたしました。当日は多数の方々のご来場を賜りまして、誠にありがとうございました。朝から夜まで雨が降ったりやんだりと、肌寒さえ感じるあいにくの天候の中、お立ち寄りいたいたことを、社員一同、心から感謝しております。

前号で告知させていたいたいた通り、今年の松永建設は、「がんばろう東日本」岩槻から被災地へエールを贈ろう!と



## 岩槻から被災地へ、熱いエールを届けた日。 雨の中、満面の笑顔が咲いた“松永サマーフェス2011”

いうテーマで催しを行いました。さまざまな方が奏でる音楽を中心としたチャリティイベントです。歌声やサウンドを被災地に届けることはできないまでも、「せめて気持ちよ、届け!」とばかりに、ステージでは渾身のパフォーマンスが繰り広げられました。また、皆様がお買い上げくださったフードやドリンクの売上金も全額、おかげさまで義援金として日本赤十字社に寄付することができました。併せて御礼申し上げます。

この日、社員の多くが、胸と背中に文字がデザインされたTシャツを着ていたのに気づかれたでしょうか? これは、この日のために作った「がんばろう! 東日本」Tシャツ。そのメッセージ通り、社員一同、元気を届けるために、より

一層の気持ちを込めて一日を過ごさせていただきました。

今回の“松永サマーフェス2011”では、中央に作られたステージ以外に、もうひとつ大きなブースがありました。それは福島県いわき市からお越しいただいた、産地直送の販売ブースです。所狭しと並ぶ農産品、おいしい地酒は大変好評で、こちらも数多くの方に訪れていただきました。このブースは、さいたま市建設業協会の岩槻支部長としていわき市を訪れた際に被災地の直接的な支援をと思い、実現しました。

当日までの準備を含め、私が何よりも感動したのは、昨年以上に実感できた「社の一体感」でした。そう、絆です。社内でもステージの出演者を募集した

ところ、手を上げてくれた社員がたくさんいました。また、一生懸命に焼きそばなどのフードを作る係、かき氷やドリンク係などに手を上げてくれた社員も大勢。このイベントに積極的に参加したい、訪れてくださった方々に精一杯のおもてなしをしたい、という気持ちの現れだったのでしょうか。

写真を見ていただくとおわかりになると思いますが、ステージ上にも、訪れていたいたいたの方にも、そしておもてなしをする社員にも、この日、たくさんの方々の笑顔が咲きました。この笑顔が意味するものをこれからも大切にしていきたい—改めてそう思った、冷たい雨の中でも熱い熱い“松永サマーフェス2011”でした。